熊本県民俗事典　丸山　学著
小中学生のための「山鹿地方の文化財」　林　幹彦編
昭和三〇年民俗調査メモ　宇野忠三郎氏
日本民謡大観（九州篇南部）　日本放送協会編
熊本のわらべ歌　熊本県
北部町史（北部町の民俗）　桑原憲彰

編纂主任　原口長之

執筆者
自然環境　岩本政教
原始　原口長之
古代・中世　工藤敬一
近世　花岡興輝
近代　徳丸達也
現代　故・島田省一
文化　中村青史
民俗　桑原憲彰
石造文化財　長井魁一郎

山鹿市史　下巻
昭和六十年三月二十日印刷
昭和六十年三月三十日発行
編纂者　山鹿市史編纂室
山鹿市立博物館内
発行者　山鹿市
熊本県山鹿市堀明町九七八
TEL(〇九六八四)三一一一一
〒八六一―〇五
印刷所　㈾下田印刷
熊本市迎町一丁目四―一六
TEL(〇九六)三五四―九三三一
〒八六〇

生は、県下各中学の生徒二千六百人とともに、鹿児島県鹿屋の海軍航空隊に動員。[39] 三学年と四学年の一部は大牟田の三井三池染料工場に動員。

山鹿高等女学校の生徒は、本渡・阿蘇高女とともに総勢六十名、女子挺身隊として、十九年三月小倉の某工場へむけ出発した。二十年三月、山鹿高女学徒動員隊、城北航空隊に入所。[40]

沖縄学童山鹿に疎開　熊本県鹿本郡に疎開する学童たちは……（九月七日）同日　朝の鹿本鉄道一番列車で山鹿町に向うた。……午前七時山鹿駅に到着、松永鹿本地方事務所長以下、町村長、国民学校児童等が熱誠の歓迎ぶり、疎開学童は直ちに山鹿国民学校に連れられ、講堂で地元の人々との初の対面式をあげた。学童達はこの豊かな山川の恵みと、町民たちの真心溢るゝ純朴さと温かき婦人の愛の手に迎へられ、今日から新生活の第一歩が踏みだされた。そして各旅館に宿舎が割当てられ、明日から山鹿、八幡の両国民学校で学業をいそしむのである。[41]

昭和十九年九月七日の沖縄学童疎開の山鹿到着を、熊本日日新聞はこう報じた。沖縄学童は三岳小学校にも疎開した。[42]

この年六月、アメリカ軍はサイパン島上陸、七月グアム島上陸と、刻々と沖縄に接近していたのである。沖縄の子どもたちが山鹿の生活になじみはじめたころ、十月、アメリカ軍はレイテ島に上陸、翌二十年四月にはついに沖縄に上陸、山鹿に疎開している子どもたちの故郷は戦場となり、親たちは戦争地獄にほうりこまれた。

註①「昭和十六年区長記録」山鹿市立博物館蔵「早川文書」
②　①に同じ
③　以上は①の「区長記録」による。
④「山鹿町会議録」昭和十四年（山鹿市役所蔵）

⑤　以上の記述は①に同じ
⑥「熊本日日新聞」昭一九・一・一号（熊本県立図書館蔵マイクロフィルム）
⑦　同前　昭一九・七・三号
⑧「九州日日新聞」「九州新聞」昭一三・一二・五号（熊本県立図書館蔵マイクロフィルム）
⑨　前出「熊本日日新聞」昭一八・一・一八号
⑩　同前　昭一八・三・六号
⑪「熊本県蚕糸業史」三六七頁
⑫　山鹿市大宮町　故徳丸政男氏（筆者の父）が勤務した。筆者自身も行き来した。
⑬　この項は（①）と同じ
⑭　同前
⑮「川辺村会議録」昭一六年（山鹿市立博物館蔵）
⑯　前出「山鹿町会議録」昭五年　所収の「昭和四年事務報告」
⑰　前出「川辺村会議録」昭七　所収の「昭和六年事務報告」
⑱　前出「山鹿町会議録」昭一九年中の「昭和十八年事務報告」
⑲　前出「九州新聞」昭一四・七・三号
⑳　前出「川辺村会議録」「山鹿町会議録」それぞれ次年度の綴りに所収
㉑　前出「早川文書」中の「昭和十六年区長記録」
㉒　同前
㉓　前出「熊本日日新聞」昭一八・二・一〇号
㉔「熊本県警察史」二巻　一〇五五頁（熊本県警察本部　昭五七・四・一刊）
㉖　前出「山鹿町会議録」昭一九年
㉗　同前　昭二一年
㉗「永田八重子氏の日記」（「三岳小学校百年史」一一二頁所収）
㉘　前出「熊本県警察史」二巻　一一一八頁
㉙　同前　一〇七四頁
㉚　文部省編「学制百年史」五七三頁（文部省　昭四七・一〇・一刊）
㉛「鹿本郡誌」三〇三頁（鹿本郡役所　大一二刊）
㉜　前出「川辺村会議録」昭二年
㉝　前出「山鹿町会議録」大一五年
㉞　前出「九州日日新聞」昭二・一二・一八号
㉟　前出「山鹿町会議録」昭一一年
㊱　同前　昭一九年　および「川辺村会議録」昭一八年
㊲　前出「九州日日新聞」昭八・二・二号
㊳「熊本昭和史年表」一九一頁（熊本日日新聞社　昭五一・一一・三〇刊）
㊴　同前　二三〇頁
㊵　同前　二三九頁
㊶　前出「熊本日日新聞」昭一九・九・八号
㊷　前出「三岳小学校百年誌」一七〇頁